

2019 年度 第 2 四半期 アナリスト・機関投資家向け説明会（質疑応答要旨）

1. 連結業績関連・その他

Q)国内の収益状況は？

A)販売数量のトレンドを含め、FY2018 下期から状況は変わっていない。

損益面も大きな変化はないが、押出事業（SPE/自動車向け）の収益が少し悪化。

Q)棚卸影響前経常利益の上方修正について要因分解があれば教えてほしい。

A)TAA の業績好転が主要因。8 月見通しから+20 億円。

Q)UATH の損益が QonQ で販売数量が変わらないなかで、改善しているように見えるが理由は？

A)収益性の高いエアコン向けフィン材が立ち上がった事が大きい。

2. 主要海外子会社の状況

Q)UATH/TAA の 19 年度上期の経常利益/最新の年間経常利益予想について知りたい。

A)経常利益: UATH: FY19 上期△28 億円 (FY18 上期 △34 億円)

TAA: FY19 上期 7 億円 (FY18 上期 35 億円)

年間予想 : UATH: △46 億円(FY18 △73 億円)、TAA 31 億円 (FY18 46 億円)

Q)棚卸影響前経常利益を FY2019 1Q 発表時の 79 億円から 2Q で 95 億円に上方修正

した要因は？ TAA/UATH の定性情報も絡めて教えてほしい。

A)TAA は生産量増に加え、北米のスクラップ価格下落に伴う、スクラップ設備を活かしたコストダウン効果が顕在化。北米の缶材需要がタイトなことから、お客さまと契約更新時での値上げも出来ており、今期の利益見通しを上方修正した。

UATH も 9 月、10 月と月産 2 万 t 強生産出来ており、計画通り。また、3 期投資設備稼働により、熱間圧延の操業度が上がり、生産性も向上。市場環境も良いことから、販売も順調。懸念は品種構成と為替。(パーツ高)

Q)UWH の今後の業績見通しは？

A)FY2019 上期にバンパー等で次世代モデルの新規受注を獲得するなど、受注は増えているが、量産のための設備投資が先行しているため、足元の損益は厳しい。21 年に営業利益黒字化と中長期では損益も好転していく。

Q)UATH の損益管理体制やチェック機能などについて教えてほしい。

A)定期的に損益の実績・見通しについて、日本・UATH で報告・議論する場を設けている。

3. 構造改革関連

Q)構造改革費用の考え方(中身)について改めて教えてほしい。(一過性の費用や減損リスク)

A)公表済みの深谷・日光の拠点集約に加え、他の拠点の集約等なども検討している。

一過性で発生する構造改革費用は固まり次第公表する。

Q)構造改革本部の6つのWGそれぞれの規模と進め方について教えてほしい。

A)構造改革は全社で取り組む。6つのWGは有機的に連携を取りながら進めていく。

WGは構造改革本部の専任スタッフが中心となって全社活動として進める。

以上

◆将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは、今後さまざまな要因によりこれらの業績見通しとは大きく異なる場合があります。確約や保証を与えるものではないことをご承知おきください。また、本資料は投資勧誘の目的のための資料ではありません。

◆著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、株式会社UACJに帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。